

電磁レーダーによるTBM切羽前方探査システム

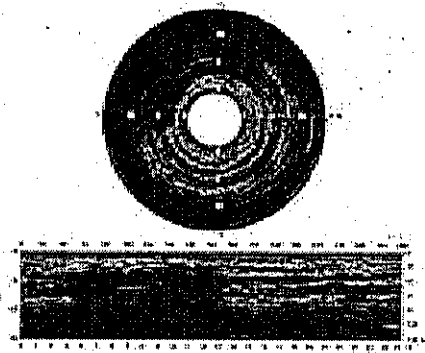
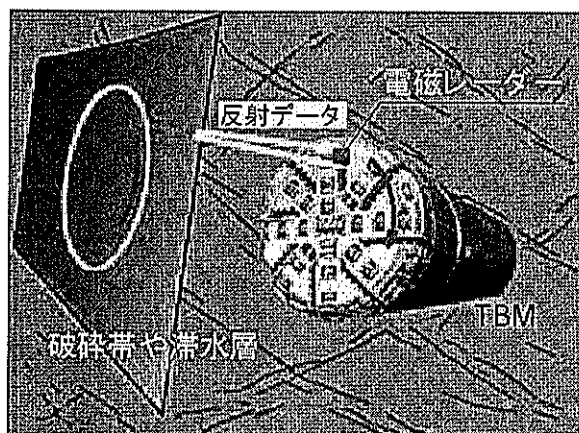
電磁レーダーを搭載したTBM掘削における切羽前方探査システム

お客様のメリット

- 探査による施工の中断の必要がなく、工期短縮が可能です。
- 切羽前方の破碎帯等を探査することで、岩盤崩落などのトラブル予測や支保の選定が事前に行えます。

技術の特徴

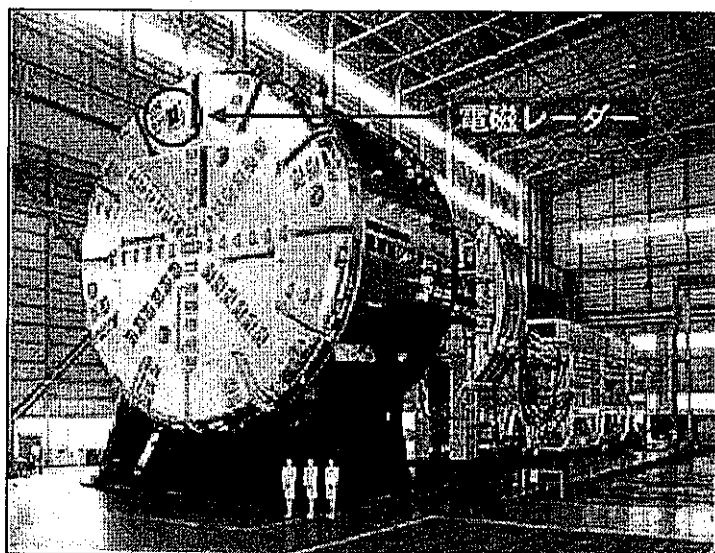
TBM面盤へ電磁レーダーアンテナを設置し、面盤の回転とともに得られた反射データを、リアルタイムで航空管制レーダーのように表示します。



連続モニタ表示

- 非破壊・非接触で調査が可能です。
- 水に対する感度が高いので、破碎帯や滞水層の調査に適しています。
- 周辺の振動ノイズから影響を受けないので、連続測定が可能です。

実績事例



- 清水第三トンネル(実験)
- 飛騨トンネル

◀電磁レーダー設置状況